

中国の変化促す機会

東京大大学院情報学環教授（中台関係論）

松田康博氏



きると考えていたようだ。

台湾がTPPへの加入を申請したことで、中国にとっては台湾が先に加入してしまうかもしれないという懸念が現実になった。TPP参加国は、台湾の加入申請をてこに、中国に対して妥協を迫ることが可能になる。

しかし、既存の参加国は新規参加国への拒否権があるため、台湾が先に入れば中国が加入するのは困難になる。世界貿易機関（WTO）に中台が2001年に加盟を承認されたときのように、TPP参加国は台湾の加入申請により、中国に対して自己改革を進め、対外的な行動をソフトに変容させることが期待できる。

中国はTPPに国際貿易における影響力拡大のチャンスを見いだし、加入を申請した。自国に合った形でTPPを変質させることを念頭に置いており、加入するにあたって他の国々をある程度妥協させることもで

また、米国をTPPに復帰させるための呼び水にもなる。日本はこうした機会を戦略的にうまく利用し、まとめ役として中国の行動変容を促し、TPPの枠組みの拡大につなげることが期待されている。

【聞き手・川上珠実】